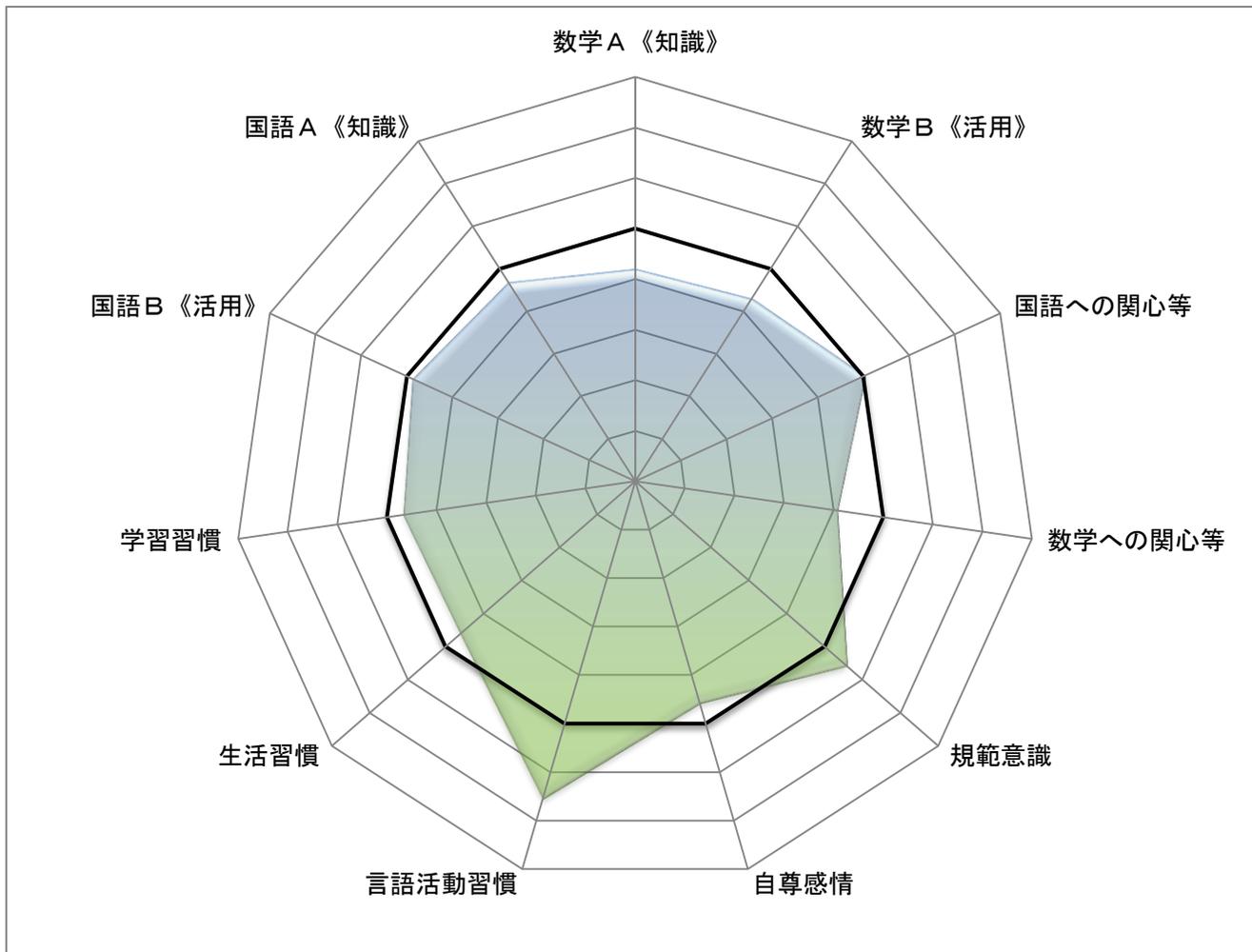


平成26年度全国学力・学習状況調査結果による「確かな学力向上推進プラン」策定のための課題分析表
江戸川区立瑞江第二中学校

《学力調査結果チャート》※学力調査と生徒質問紙調査の結果を標準化したレーダーチャートです。(太線は全国平均)



《現状把握》

本校では「協同的な学び合い」の授業を推進している。単なるグループ活動ではなく、共有（身に付けたい基礎）の課題と発展的な課題を授業の中に設定した子供同士の「対話」と「協同」を中核とした学び合いである。「一人残らず子供の学ぶ権利を実現することと、学びの質を高める」ことを目的としている。
この授業展開が確実に推進されると学力の向上はB問題（応用発展問題）から飛躍的に向上し、次にA問題（基礎問題）が向上するという特徴がある。本校でも、国語、数学共にB問題が昨年度よりも向上している。

《授業改善のポイント》(推進プランは別紙)

「協同的な学び合い」の授業を確実に推進していく。特に、応用発展的な課題の質を高めることが今後の課題である。
これからの全校研修（研究授業、協議会、講師を招いての学び合い）や学年研修（授業をビデオ撮影し検討する研修）において「生徒の興味・関心を高める課題であったか」「授業において学び合いが行われたか」「一人一人の学びが保障されていたか」という点を中心として協議を行うことにより授業改善を進める。
また、コの字型机配置の授業についても複数の教科において試験的に実施している。今後、研究協議を進めて授業改善に生かす。

《チャートの特徴》

言語活動習慣については、本校の取り組みである「協同的な学び合い」の授業を推進していることが大きな要因である。行事等においても生徒によるプレゼンテーション、パネルディスカッション等の言語活動を意図的、計画的に取り入れている。
また、全ての教育活動において「リーダー性の育成」の視点を教職員が持っている。瑞江二中の伝統や良い生活習慣を先輩から後輩へ、生徒自ら伝えていく活動により規範意識も育っているものと思われる。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習の習慣化をねらいとして「家庭学習ノート」の取り組みを実施している。今後、生徒の実態に応じた、より効果的な取り組み方法について協議を進めて改善をするとともに保護者との連携の方策についても検討を進める。